

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	2	ぬくもり・雄武	整理番号	33
基本施策	10	地域福祉の推進	評 価 責 任 者	保健福祉課長 豊田 通敏
単位施策	1	福祉意識の醸成		

1 施策の概要

基本方針	保育・幼児教育、学校教育、社会教育の中で一貫した福祉教育を推進するとともに、広報活動、イベントなどあらゆる機会を通じて、福祉意識を醸成します。	
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）
	<p>少子高齢化、世帯人員の減少、知縁での人間関係の希薄化などが進む中、民生児童委員・ボランティアの方々等と風の子児童センターの子どもと行事の中での交流、敬老会等での保育所とお年寄り及び学校の総合学習での地域との交流をとおして、互いに協力しながら助け合う心と責任を持つことの大切さを理解する貴重な体験をさせる事業を実施している。</p>	<p>人間関係の希薄化が見られる中、地域福祉の中核を担うべく社会福祉協議会が実施するふれあい広場やボランティア活動推進事業等の各種福祉事業、保育所児童による老人クラブ慰労訪問や生活発表会への老人クラブ会員の招待等の世代間交流を推進し、助け合いやふれあいの大切さを学ぶ機会を与えている。</p>
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）
	<p>小中・高校や保育所では、福祉施設の訪問や地域の高齢者との交流などを通じて福祉教育を推進しているが、少子高齢化や核家族が進行するなか、福祉活動の重要性が拡大する一方、住民の福祉に関する意識や知識、技術は十分といえない状況であり、福祉問題に関する啓発に努めるとともに、誰もが気軽に体験しながら福祉について学べ、実践できる体制づくりを進めていかなければならない。</p>	<p>地域福祉の向上に重要な役割を担う社会福祉協議会との連携を強化し、古くから言われる向こう三軒両隣の精神を養い、地域コミュニティの再形成に向けた取り組みを推進し、幅広い年齢層に対して福祉意識の醸成に努めていく必要がある。</p>

指標1	指標名	福祉施設等での福祉体験の年間延べ人数					
	定義等	福祉施設等での福祉体験の年間延べ人数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						60人
	実績値		29人	20人	20人	20人	
指標2	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度決算額(千円)	総合評価	今後の展開方向	単位施策への貢献度
①	社会福祉協議会補助事業	社会福祉係	10,800	A	継続/現状維持	A
②	雄武町戦没者追悼式	社会福祉係	167	A	継続/現状維持	B
③	雄武町民生児童委員協議会運営補助事業	社会福祉係	53	A	継続/現状維持	A
④	雄武町遺族会運営補助事業	社会福祉係	40	A	継続/拡充	B
⑤	紋別地区保護司会雄武支部運営補助事業	社会福祉係	30	A	継続/現状維持	B
⑥	雄武町人権擁護委員協議会運営補助事業	社会福祉係	15	A	継続/現状維持	A
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	福祉意識の希薄が見られる中で、地域福祉の向上のためのさまざまな活動をおこなうなど重要な役割を担う社会福祉協議会への活動支援により、町内の学校の児童、生徒の若年層を対象にボランティア推進事業を行うなど、本施策は政策目標達成に貢献するものである。
② 有効性	A	高校ボランティアの自主的活動や保育所による老人クラブ訪問など、あらゆる機会を通じて福祉意識の醸成に向けた取り組みが進められており効果は得られている。
③ 効率性	B	町民全体が福祉意識を持ち、助け合いや支えあいがあらゆるところで行われることによってこそ、誰もが安心して住みやすい町づくりが実現するものであり、各事業は政策目標達成に向けて妥当であるが、社会福祉協議会との連携により更に効果的な取り組みを検討し、自治会等の地域コミュニティの再形成に向けた取り組みを進めていく必要がある。
④ 公平性	A	福祉意識が醸成されることによって、誰もが住みやすい町づくりにつながることから公平である。
⑤ 町民意見の反映	B	民生委員や社会福祉協議会の活動の中では、要支援者からの状況や近況の聞き取りがおこなわれ、助け合いや支えあい活動につながっている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
福祉意識の醸成に向けた各事業は政策目標の達成に効果的であり、引き続き施策を進めていく必要があるが、自治会活動に参加しない若者も増えてきており、地域コミュニティの再形成に向けた取り組みを進めていく必要がある。	同左	

今後の方向性

継続/内容の見直し・変更	継続/内容の見直し・変更	継続/内容の見直し・変更
今後は社会福祉協議会との連携により、地域コミュニティの再形成に向けた取り組みを推進し、幅広い年齢層に対して福祉意識の醸成に努めていく。	同左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止